

比較検証 2つの「野望」 ～雑誌版と貸本版～

・雑誌版と貸本(オリジナル)版の違い・関係性をわかりやすくまとめてみました
(と言うより、試みてみました・苦笑)

- ・某掲示版での、某Hさんの書き込みがキッカケです。
- ・貸本版の流通量は少なそうですし、存在自体が、あまり知られていないようなのが、
なんとも残念で……

皆様の何がしかの参考になれば幸いです。

- 大雑把なイメージ比較としては……
- ・貸本版は、勢いはあるが、気持ちばかりが先走っているような印象
 - ・貸本版は佐藤さん自身の手によると思われる絵が多い(ほぼ想像……苦笑)
 - ・全体的なクオリティとしては雑誌版が数段優る。
 - ⇒貸本版は、雑誌版と比較すると、構成に難がある
 - ⇒貸本版は、単純なミスと思われるキャラ設定がある

比較① ページなど

・各単行本シリーズについては、当サイト内の代表作紹介のページ参照 ⇒ [クリック](#)

ゴラクコミックス(B6)と佐藤プロ版(新書)の表紙カバーの写真 ⇒ [クリック](#)
サイト「DELETE MYSELF !」の「マンガラリー」⇒ 佐藤まさあきコーナー ⇒ 野望のページへ
(管理人のclashさんに感謝です)

2つのシリーズの頁割り、副題などは以下ようになります。

雑誌版(単行本ゴラクコミックス B6)			貸本版(オリジナルの書き下ろし単行本)		
巻数	サブタイトル	頁数	巻数	サブタイトル	頁数

①	殺戮への序曲	320	①	第一部 副題なし	130
②	とむらいうた	340			
③	神に叛くもの	320	②	第二部 とむらい唄	130
④	悪霊の群れ	300			
⑤	黒い死の死者	310	③	第三部 神に叛くもの	130
⑥	若き狼の飛翔	290			
⑦	終わりなき闘い	310	④	完結編 黒い死の死者	130
—	— — —	— —			

・ゴラクコミックス(B6)と佐藤プロ版(新書版)とでは、各巻への頁数割り当てが若干異なる
 ・頁数は、おおまかな数字です

比較 ② キャラクター比較表

セル背景が水色 ほぼ同一のキャラクターが 貸本版にも登場	セル背景が緑色 設定がやや異なるが、原型と思わ れるキャラクターが貸本版にも登場	セル背景がピンク色 貸本版には、原型らしきものさ え登場しないキャラクター	
.....			
雑誌版登場キャラクター		貸本版での対応キャラ	
キャラクター名	キャラ特性		
猪斐雅彦・いびまさひこ	本作品の主人公		
猪斐雅彦の母	特に名前は出てこない		
猪斐城太郎	雅彦の父。		
猪斐亜矢子	雅彦の妹。過酷の境遇で育ち、幼くして死去。		
猪斐雅彦の叔父	没落した、雅彦一家に対してツラク当たる。		
矢島慶三(東和鉄道～コンツエルンを仕切る、財界の大物)	雅彦の仇敵。東和鉄道を雅彦の父(猪斐城太郎)より乗っ取る。		
矢島奈美(矢島慶三の娘)	雅彦と相思相愛の関係になる。失意のうちに自害。	矢島直美という名である	注1
仁科康行	東西貿易の御曹司で奈美の許婚	貸本版では1巻にしか登場しない	
美杉恭二(雅彦の忠実な部下)	女子高校生を拉致殺人し、その凶行を雅彦に知られる。	仁科という名前。雅彦の中学の同窓生という設定である。	注2
須山容堂(雅彦のブレーン)	雅彦のブレーンの一人。株の相場師。兜町乞食(しまこじき)。		
根津雄介(雅彦のブレーン)	雅彦のブレーンの一人。弁護士協会除名の悪徳弁護士。		

蛇沼刑事	静岡県警。雅彦を犯人と確信し、執拗に追う。	どこの所属かは不明	
中西江梨子	パール商事秘書。雅彦の恋人～愛人的存在。		
榊原(魔東洋銀行の頭取)	雅彦の謀略に嵌められ、多額の融資をパール商事にしてしまう。		
金城(私立探偵)	矢島の放った私立探偵だが、雅彦に二重スパイに仕立てられる。	銀城という名である。	
鏡山抱月(総会屋の元締め)	。矢島陣営に就く		
鬼堂亨 (総会屋)	鏡山の兄弟分・ライバル的存在で猪斐雅彦陣営に就く。		
ムーザ夫馬頭 (国籍不明パイヤー)	東西貿易の仁科と組み、パール商事に妨害工作を仕掛けるが、雅彦の謀略に嵌る。最後は、雅彦に射殺される。	犯罪組織のボスとして似たようなキャラは登場	
佐沼(東和鉄道常務)	矢島慶三の腹心の部下。東和の株を多く所有。	美奈月という名である	
河原崎巖葉	総会屋の長老・大ボス。引退生活しているが、雅彦側に就く		
パール商事	雅彦の経営する会社(オモテの顔用)	セントラル貿易という社名である	
登場せず	-----	瑠璃子(貸本版のみ)	注3
注1 直美・なおみ(ルビ標記)でスタートするのだが途中から直美・なみ(ルビ)標記に変わる。誤植なのか、特別な意図があったのか不明			
注2 東西貿易の仁科(貸本1巻のみ登場)と同じ名字で、2巻より登場する。仁科という名字を誤まって2度使用してしまったと思われる。			
注3 瑠璃子 回想シーンのみで登場。雅彦の恋人だったが、某会社の御曹司と結婚してしまう。			

比較 ③ ストーリー進行比較表

セル背景が水色：ストーリー・構成ともに、基本的に貸本版と大きく変化が無い。

セル背景が緑色：エピソード自体は貸本版と雑誌版とで同じだが、雑誌版の方が、複雑になっている。

セル背景がピンク色：エピソード自体は貸本版と雑誌版で同じだが、大きな解釈違いが有る。

雑誌版のストーリー進行		貸本版のストーリー進行	
巻	内容(進行順)	巻	内容(進行順)
1	パーティに潜入して直美に近づく。翌日待ち伏せして、直美の唇を奪う	①	←ほぼ同じ
	暴力団襲撃～麻薬強奪 数千万を得る		←暴力団襲撃 現金と麻薬強奪 麻薬は組織ともめた上に換金する
	美杉を忠実な部下にする。美杉は女子高生を拉致殺人。美杉と雅彦は、未知の間柄だった。		←雅彦は中学の同窓生である仁科を忠実な部下としてスカウトする。
	二人のプレーンとして、須山・根津を迎える。		
還流紙幣溶解工場の襲撃 18億円		←現金輸送車襲撃	

2	蛇沼刑事の罠にはまり、おびき出される雅彦。からくも逃げる。	②	←蛇沼の上司が罠をかけ雅彦をおびき寄せろ。からくも逃げる。
	パール商事実業家デビュー		←セントラル貿易雅彦社長・仁科が専務
	求婚を口実に矢島に会う雅彦は挑戦状として葬送進行曲とむらいの歌をプレゼントする		←ほぼ同じ
3	蛇沼刑事が 18億円強奪事件の件で雅彦を訪ねてくる。	③	矢島の放った私立探偵・銀城を二重スパイにし、美奈月脅迫ネタを得る。⇒4巻相当
	雅彦は、東和の株を東和身内より買おうとするが、相手にされない。		←南北建設記本と 東和の美奈月に株を譲るよう依頼するも断られる
	スキャンダルで東和の株価操作を行う。		地下賭博場襲撃⇒6巻か？
	東和株の1/3近くまで買う		美奈月を脅し株を譲らせる⇒6巻か？
	東和側による美杉の拉致～辛くも奪還する。		美奈月は雅彦に刺客を差し向ける
東和株の抜き打ち増資 1/4へ減少。			
4	東和鉄道常務・佐沼の放った私立探偵「銀城」を2重スパイにする。		
	銀城のスパイ情報を元に、鉄道予定地の先買いをする。		
	総会屋として、雅彦側は鬼堂を、矢島側は鏡山をそれぞれ迎える。		
	株主総会は、矢島・鏡山の計略で、東和側勝利に終わる。雅彦は敗北感を味わう。		
5	佐沼を罠に嵌める～リベート授受で左沼を脅す。		
	ムーザ夫馬頭 国籍不明バイヤー パール商事の役員になる		
	パール商事を雅彦退陣		
	パール商事は、ムーザ社長、東西貿易の仁科が重役に		
	パール商事は実質5億の赤字		
6	ニクソンショックで株暴落～雅彦は株を東和株を買い進める		
	江梨子が雅彦の前から去る		
	奈美が、父の会社乗っ取りの事実を知る(江梨子が教える)		
	雅彦は佐沼の株を脅迫して譲らせる		
	地下賭博場襲撃 ムーザを射殺		仁科は美奈月刺客に撃たれ死亡。刺客2人を雅彦射殺⇒7巻
	雅彦への愛を誓う奈美は、自分の株を雅彦へ譲る。		襲撃応酬の際に、落とした薬莢のライフルマークが現金輸送襲撃時のものと一致することに気づく蛇村刑事⇒相当するエピソード無し
	雅彦と奈美は湘南に新居を構える		雅彦は直美から株券を譲り受ける 直美は、雅彦と矢島の因縁を知らないし、雅彦も教えない。⇒6巻
	矢島は雅彦抹殺と奈美奪還を命じる		
佐沼の裏切りに気づく矢島		直美と暮らすも直美は連れ戻される。⇒6.7巻	
佐沼は自殺		雅彦の死と、雅彦を殺させた父への不信と憎悪で奈美は自殺⇒7巻	

7	美杉が矢島の配下のものに襲撃されて死去。	④	
	根津と容堂は雅彦と別れる		
	金城を抹殺する雅彦		←銀城を抹殺する雅彦
	薬莢に指紋を残し、証拠を押さえる蛇沼		←ほぼ同じ
	河原崎巖葉が雅彦につくが、死去		
	奈美が連れ戻される		
	雅彦が矢島側に襲撃される		←ほぼ同じ
	雅彦の死と、雅彦を殺させた父への不信と憎悪で奈美は自殺		
	株式総会、死んだ筈の雅彦が登場 雅彦は過半数の株所有		←ほぼ同じ
東和の社長に就任する。蛇村刑事が社長室へやってくる。引き出し内の拳銃を確認し、来訪者へ「どうぞ」と声をかける。	←ほぼ同じ		

比較まとめ

- ・貸本版を大幅に加筆修正したのが雑誌版である。
- ・頁数で5倍、コマ数にして約10倍に分量が増えている。
- ・基本骨格は基本的に同じであるが、雑誌版では、貸本版に登場しないキャラクターも多く登場する。
- ・貸本版で登場するが、雑誌版では登場しないというキャラクターは、基本的に居ない。
(例外として、貸本版では、回想シーンのみでは有るが、雅彦には瑠璃子という恋人が居たことになっている)

★ 意外に重要な役どころなのが ★

① 蛇沼刑事

貸本版では、「お決まりの敵役」として登場するに過ぎない印象だが、雑誌版では「犯罪を憎むようになった、彼の忌まわしい過去」についても語られており、雅彦の行動原理を際立たせる意味でも、重要な役どころを演じている。

② 私立探偵の金城(貸本版では銀城)

本来、矢島側が、雅彦の動向を探らせる目的で送り込んだ探偵だが、雅彦の暴力的脅しに屈し、雅彦のスパイとなる(2重スパイ)。秘密を知りすぎる金城は、最終的に雅彦に葬り去られるが、射殺時に薬きょうに残された指紋が決定的な証拠となる。この雅彦逮捕の決め手となる証拠に関わってくる点を考えると、このキャラは重要な役割を担っている。

③ 矢島奈美(貸本版では直美)

東和奪還という野望のために、奈美に近づいた雅彦であったが、次第に奈美を愛するようになる。雑誌版は、純愛モノとして、十分に読めるが、貸本版では、雅彦の心情変化が、どうにもスッキリしない。

その他 1 魅力的な脇役たち

★ 雅彦の協力者たち ★

①忠実な部下～美杉(貸本版では仁科に相当するが、お座りな設定は否めない)どこかしら陰のある性格の美杉の造形は素晴らしいです。貸本版の仁科の造形は中途半端。雑誌版1巻での女子高生拉致～殺人のエピソードのリアルティは佐藤まさあきの独壇場であろう。雅彦の部下となつてからの、失策含めた活躍や、雅彦との人間関係の描写なども、とてもリアルティが有る。

②ブレン 須山容堂(雅彦のブレンとして、雑誌版のみ登場)
株の相場師として、東和株買占めの中心的存在を担う。一時は乞食同然まで落ちぶれていたが、雅彦の野望に共感し協力者となる。

③ブレン 根津雄介弁護士(雅彦のブレンとして、雑誌版のみ登場)
刑務所帰りの悪徳の元弁護士。会社設立、経営について、法律的な側面から、雅彦を助ける。

美杉とブレン2人の造形の確かさには、改めて敬服する。佐藤まさあきほどにアウトサイダーを魅力的に描ける作家は数少ないだろう。

★ 3人の総会屋たち(全て雑誌版のみに登場) ★

●鏡山抱月・鬼堂亨・河原崎巖葉
これまた、味のあるキャラクターに仕上がっています。物語終盤に登場の河原崎は蛇足か?とも思われるが、作品のフニキづくりには、重要な役どころになっています。

★ 左沼(矢島側では有るが……) ★

●左沼(東和鉄道常務)貸本版では美奈月。
矢島の古くからの仲間～部下であるが、東和・切り崩しのキッカケとして、雅彦にターゲットにされ、最後は自殺してしまう。ペーパーの負け組会社員(多分・苦笑)の管理人ハクダイですが、同じく、「会社という組織で働くもの」としては、身につまされます。こういう、自殺まで追い詰められてしまうような、イジメラレ描写みたいなものも、佐藤まさあきは上手いんだよなあ……。

その他 2

少し細かいことに拘ってみました(苦笑)

この物語は戦後何年に始まるのか?
作品冒頭、プロローグが語られるのは、貸本版・雑誌版共通ですが、文中、戦後〇〇年、という表現があり、これは、初出の時期に合わせているようです。

貸本版	戦後18年(刊行時の昭和38年に対応)
雑誌版	
① ゴラク版 (B6単行本・B5 雑誌増刊)	戦後25年(連載開始時の昭和46年に対応)
② 佐藤プロ版 (全7巻新書)	戦後33年(佐藤プロ版の発行時期にほぼ対応)
③ 道出版版 (全3巻・B6)	未入手なので確認できていない(気になるなあ……苦笑)

佐藤プロ版は、プロローグのこの数字だけを差し替えています。リアルタイムであることが、重要であるという考えなの?と想像するが、別に25年のままで良いじゃん?とハクダイ的には思います。いかにも、かつての「貸本出版社」的な発想だなあ?と思うのは、あたしだけ?・苦笑。

東和の株主名簿によると……貸本版では意外な名前が(苦笑)

姓名まで、はっきり分るのは3人のみだが、意外な(ありがちな?)遊びがあります。

- ・美奈月鳴男
- ・記本竜治朗
- ・榎岡三雄

面白いですよね・・・フフフ。ちなみにハクダイが分るのは2人だけです。

参考までに、雑誌版では以下6名の名があります
(岩壁泰造・河本道夫・羽柴順一郎・青柳武夫・牛久達成・安川良雄)

ハクダイのカカク
Hakudai no Kakaku